

自 平成25年4月 1日
至 平成26年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成25年度

事業計画書



公益財団法人ハーモニィセンター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
独立行政法人国立オリンピック記念
青少年総合センター内
電 話 03-3469-7691
FAX 03-3469-7714

目 次

—はしがき—	… 2
(A) 子どもトレーニングキャンプ	… 3
(B) ポニークラブ活動の推進及び啓蒙	… 4
1 小貝川三次元プロジェクト	… 4
2 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ	… 5
3 相馬ポニー牧場・ポニークラブ	… 6
(C) 子ども動物広場事業の実施・運営	… 6
(D) 青少年の国際交流の実施	… 1 1
(E) 青少年の指導者の育成	… 1 3
(F) 機関紙(誌)及び資料等の発行	… 1 4
(G) 青少年教育に関する調査研究	… 1 4
(H) その他	… 1 4

はしがき

(財)ハーモニィセンター50年の歩みを基に、名実共に新しい船出の年となる。

- 1 財団法人から公益財団法人への移行。
- 2 (財)ハーモニィセンター創立以来の立役者、理事長大野重男の引退。
- 3 各分野の人材から権限と責任を持ち、運営に携わる新評議員、新理事の就任。
- 4 事務局新体制の発足(異動、増員、連携)。
- 5 広範な事業内容の新定款。

○ 基本姿勢

「初めに夢ありき」の出発から「ヨーロッパ旅行(FTE)」「子どもとポニーのふれあい」「蓼科・相馬・小貝川牧場作り」「動物公園・広場委託」「出前乗馬教室」「インドネシア、中国(内モンゴル)、モンゴル、ドイツ海外交流」「被災者支援乗馬活動」「子どもから大人、高齢者、障害児者まで」。いつしか青少年団体の枠を越え、「不特定かつ多数の人々の利益」につながる活動へと脱皮を続け、常にあらゆる人の幸福な世界を広げようとする思いを持ち続けてきた。

新定款に明記した「ハーモニィ憲章」の「一人一人がかけがえのない存在である」という人間観を拠り所とし、活動を展開する。

これまでの活動や社会的に内在しているテーマの掘り起こし、志を同じくする仲間と手をつなぎ、個人・団体の「賛助会員」(理解者・支援者)を得ながら、歩みをゆるめることなく「新たな夢の開拓」に向かう。

○ 重点項目・要点

- ① 2012年、ドイツ乗馬交流で学んだ新「軽乗」の取り組みを進める。軽乗用大型馬の取得、学習研究会、実技研修、指導者の養成。各動物広場、牧場での常設プログラムへのとりくみ。ドイツより専門コーチを招聘し、同じ志を持つ全国の仲間へのデモンストレーション付き講習会による普及活動。
- ② 安心して使えるポニーの供給体制の整備。立ち上げから自立した運営までの支援を行う「身近にポニーのいる世界」の普及活動。
北海道(帯広畜産大学)、福岡(久留米大学)での「馬を活用した福祉、医療、教育」活動の調査、研究への協力応援。
- ③ 小貝川(牧場)を拠点とした利根川(国交省河川事務所)、霞ヶ浦(土浦市)とをつなぐ乗馬散歩、河川パトロール等の「ポニーと川べりを活用した広域の新規事業」の開拓。
土浦スポーツ健康クラブと連携した、「ポニーふれあい乗馬」活動の推進。土浦桜川河川敷を活用したモンゴル式子ども競馬デモンストレーション計画。年間を通しての土浦市での馬とのふれあい普及のための環境整備。
- ④ モンゴル文化教育大(前ユートピア日本語学校)創立20周年記念行事の開催。モンゴルでの記念報告会、ナーダム(相撲、競馬)、交流会(8月)。日本(土浦)での記念交流会、コンサート(10月)を通しての交流促進。
- ⑤ 乗馬、医療、福祉、教育、スポーツ関係の専門家らとの産学協同研究。「乗馬による脳刺激の有効性(案)」のテーマでの「人と馬の文化・創生」の活動推進。
- ⑥ 従来の会員向け広報活動から、公益財団として広い対象者へ発信する情報(広報)活動への転換。一年を通じた研究、実践を行う編集委員会の編成。「子どもから高齢者、障害児者、不登校児などあらゆる人が馬と親しむことの効果」「モンゴル、ドイツ等の馬を通じた国際交流」などの情報発信、啓蒙活動等への活用。
- ⑦ 外国人との交流、相互理解を深める語学交流講座(英語、ドイツ語、モンゴル語)の開講。
- ⑧ 社内外での研修、資格取得、海外派遣研修の実施。多種事業、リスク等に対応できる、ボランティアを含めた人材育成。
- ⑨ 蓼科ポニー牧場の老朽化の調査。馬場・建物の補修計画、修繕。
- ⑩ 「川べり牧場学校」設立のための調査研究、廃校舎等の情報収集。

A. 子どもトレーニングキャンプの実施

自然と動物（ポニー）とのふれあいを軸に、5才から15才の子どもたちが、身体を鍛え、気力・体力・技術を磨き、思いやりのある強い心を培っていくための豊かな生活体験活動の機会と位置付ける。

キャンプ活動を通して「ためになることが出来るようになり」、「感動、達成感が得られ」、「元気があふれてくる」プログラムの充実を図る。

子どもの成長の支えとなる「たくましさ」「生きる力」を育むため、裏打ちとなる知識、智慧、自信、夢、勇気、辛抱強さ、寛容さ、努力、やさしさ…といった精神性を高めていくことに重点を置く。

さらにカウンセラー（キャンプリーダー）、OB、外部の専門家、保護者等の協力を仰ぎ、目標に向かって、互いの成長を喜びあい、学びあえる質の高い活動を展開していく。

各動物広場、牧場でトレーニングを受けた子どもたちが、一人でも多く、モンゴル大草原競馬、ドイツでの軽乗・乗馬交流体験への夢を描き、励みとなるような、プログラムの充実力を注ぐ。

昨年からはポニーキャンプに乗馬技術検定・外乗・登山・探検・野外料理・テント泊・カヤックといった特別企画を加えた「連携キャンプ」を実施。今年度も一年を通して、季節に応じた自然環境を生かした多様なプログラムの開拓を進める。オリンピックセンター内での身近な自然環境を生かした新しい都会型体験プログラムを検討中。

同時に、山登り、飯盒炊爨、釣り、野鳥観察、ハイキング、ツリークライミング、マラソン、海川遊び、水泳、スキー、スケート…など、多様な野外自然体験の機会を設けることに留意していく。

内容 項目	実施回数	延泊数	参加予定数	
			子ども	大人
長期	20回	62泊	718名	185名
短期	20回	34泊	247名	174名
受託	14回	42泊	151名	29名
計	54回	138泊	1,116名	388名

参考：過去3年の実績

22年度	58回	134泊	1,171名	463名
23年度	56回	145泊	1,011名	372名
24年度	60回	159泊	1,108名	414名

事務局体制 職員 3名

登録カウンセラー数 145名（平成24年1月現在のニュースレター送付数）

※24年度に関しては25年春キャンプ分が見込み数

B. ポニークラブ活動の推進及び啓蒙

	面積・施設・設備等	飼育動物	職員
小貝川	Eボート1艇 カヤック25艇 マウンテンバイク24台 馬場1面	ポニー・馬11頭 ヤギ、ウサギ	3名
蓼科	15,000㎡ 馬場3面(内1面は屋内馬場) 宿泊棟3棟	ポニー・馬32頭 ウサギ・羊	5名
相馬	29,000㎡ クラブハウス2棟 宿泊棟4棟 馬場2面		1名

<1> 小貝川・三次元プロジェクト

小貝川の広大なフィールドで「川・陸上・空」を活用した事業（小貝川三次元プロジェクト）を展開して12年目を迎える。今年度は「空」で新たな事業を始動し、「新・三次元プロジェクト」を確立・推進する。この新事業の概要は下記の通り。

・「ランドヨット」プログラム

17世紀にはヨーロッパで荷物を運ぶ手段の一つとして活用されていた「風」を動力として走る「ランドヨット」を、子どもから高齢者まで親しめる新しいスポーツとして導入する。

【事業内容】

① 「陸」部門（予約制）

1. 乗馬（団体レッスン・個人レッスン） (10:00～12:00 13:30～15:15)
2. 高齢者健康乗馬 (10:00～12:00 13:30～15:15)
3. 河川敷乗馬トレッキング (10:00～12:00 13:30～15:15)
4. 障害児・者乗馬 (10:00～12:00 13:30～15:15)
5. ポニー教室（牧場会員の小学校1年生～中学校3年生）（日曜・祝祭日 10:00～17:00）
6. 移動乗馬教室
7. 会員ポニーキャンプ (年2回：夏、春休み期間中)
8. マウンテンバイク教室 (年3回)

② 「水」部門

- ・カヤック教室、川遊び体験教室 (5月～10月)

③ 「空」部門

- ・「ランドヨット」教室

今年度は会員内（ポニー教室所属）でのデモンストレーション活動に重点を置く。

夏休みに子どもを対象とした公開講座でペットボトルのランドヨット製作を実施する。

- ・導入スケジュール

4月～5月：ペットボトルによるランドヨット作り

5月～8月：ラジコンで走るランドヨット作り。

本物みたいに走るラジコンランドヨットを設計・組み立て・実験

9月～3月：自分で乗れるランドヨット作り。

実物大のランドヨット作り。乗って走る。

- ④ ふれあい事業
 - 1. 小動物やポニー（小型）移動動物園
 - 2. 親子飼育体験
 - 3. ポニー、小動物とのふれあい
- ⑤ 「小貝川生き生きクラブ」の運営受託（施設管理）
地域の集会用、小貝川牧場活動の拠点の施設。取手市の委託を受けての管理運営。研修室、会議室、和室の予約・利用の受付、清掃維持管理作業など。
- ⑥ 「小貝川生き生きクラブ」事業
 - 1. パソコン教室（週2回）【土曜日、月曜日】
 - 2. 馬頭琴教室（月1回）【日曜日】
 - 3. 子どもの水辺サポートセンター所有資機材管理、貸出。
 ※ 定休日（火曜日）。

< 2 > 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ

昨年度より引き続き5ヵ年計画で「人と馬の文化の普及・創生」をテーマとした活動に取り組む。

普及に関しては、他団体・一般利用者のための利用しやすい体験コースを設定。また場内にバランス感覚を養う人工ハザードを設置。創生に関しては馬を通じた産学協同での研究、「乗馬による脳刺激の有効性（案）」に取り組む。

人と馬の安全を考慮した環境整備のための馬場の改修整備。長期研修者用の宿泊棟建設計画をすすめる。

【事業内容】

- ① 野外教育施設としてのポニーキャンプ（主催事業）・ボランティアリーダー研修。
 - 1. （公財）ハーモニセンター賛助会員・一般参加者対象。
 - 2. コープ会員対象（『たてしな高原ポニーキャンプ』）
 - 3. 動物広場児童対象。
 - 4. 長野ホースショー出場者対象。
- ② 蓼科乗馬会（年9回実施）週末の金曜日～日曜日にかけての宿泊型。外部より招いた上級指導者資格者のインストラクター指導の本格的な基礎・応用練習を行う。同時に初心者向けレッスン、牧場内林道のミニトレッキング、馬場での経路練習等を実施。楽しみながらの技術向上を目指す。
- ③ ポニークラブ…（月2回日曜日の午後）
地元小中学生を対象としたポニークラブ（蓼科ジュニアポニークラブ）を実施。家族での参加を原則とし、保護者も乗馬体験を共にする。
- ④ 他団体日帰り・宿泊乗馬体験…障害児グループ等
- ⑤ 移動乗馬教室
- ⑥ 引き馬・乗馬レッスン
- ⑦ 他の事業所と連携してのポニー・馬の繁殖・調教・育成
- ⑧ 小学校へのポニーの派遣…馬とのふれあいを通じた動物理解を深める学習活動の応援。
- ⑨ わんぱくポニー村（蓼科第2ポニー牧場）…5月連休・夏休み・9月連休の期間の、蓼科湖畔における一般家族向けの移動乗馬教室及び小動物ふれあい教室
- ⑩ 団体・個人での研修受け入れ・相互交流
- ⑪ 産学協同研究（乗馬による脳刺激の有効性（案））

< 3 > 相馬ポニー牧場・ポニークラブ

相馬ポニー牧場は東日本震災による被災、福島第一原子力発電所事故後の放射能災害において2年の休業状態を続けている。地域社会においても基幹産業の復興や安定した雇用の増加などの解決が進まず、生活再建の基盤を失いかけてつある。

相馬ポニー牧場では、自らの再生を積極的に図ることで地域社会の再生が進むことを願い、再生のための環境整備活動を進めていく。そのための人的ネットワークの再構築を手始めに、放射能、放射線量の不安からの脱却と具体的な参加型プログラムの実施へ移行していく。

【事業内容】

3-1 地域と連携した生活圏除染活動

- ① 来訪者、支援者への安心感の提供。
- ② 放射能・放射線を学ぶ講習会の実施などによる支援者の獲得。

3-2 ポニーを中心とした事業活動

- ① 主催事業の東北支援「子どもたちに笑顔を贈る事業」定点化のための拠点整備。
- ② 福島県内をはじめ東北の市町村と連携したポニー移動教室の継続。

3-3 施設の利活用

- ① ボランティア活動での拠点。
- ② 一時避難者のための拠点。
- ③ 震災後の復興再生プログラム活動の拠点。

C. 子ども動物広場事業の実施・運営

「子どもをはじめとするあらゆる人の居場所」として役割を果たし、ハーモニセンターの財政面のおよそ8割を支える発展ぶりを示してきた。

年々自治体との絆は深まっており「ハーモニセンターなくしては成り立たない」と活動に対する高い信頼の発言が各自治体担当者から寄せられている。

9つの事業所すべてで「動物クラブ」「ポニークラブ」などのポニー乗馬に関する事業を展開し、おのおの特徴ある日常活動を進めている。

現在まだハーモニセンターの事業所に加わっていない他の既存動物施設から、今後も委託に関する問い合わせに対して、運営自治体、当該施設の方針、運営内容を確認のうえ積極的に対応に当たっていく。

【施設概要一覧】

	所管課	面積等	飼育動物	職員数
碑文谷	都市整備部みどり公園課	3,310 m ²	ポニー6頭・ウサギ・モルモット・アヒル・犬	6名
水元	教育委員会地域教育課	3,000 m ²	ポニー15頭・チャボ・鶏(15羽)	10名
相模原	環境保全部公園課	15,000 m ²	ポニー16頭・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・アライグマ・シマリス・ミーヤキヤット・ハイラックス・シカ・ウサギ・鳥類・クジャク・チャボ	17名

万騎が原	財団法人 横浜市緑の協会	14,000 m ²	モルモット・ヒヨコ・アヒル・日本鶏・ハツカネズミ	3名
板橋3園	土木部 みどりと公園課	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ² 昆虫舎 1,814 m ²	ポニー4頭・ウサギ・モルモット・ヤギ・シカ・ヒツジ・フラミンゴ・クジャク・カメ・鳥類・昆虫	11名
海老名	市民協働部文化 スポーツ課	建設中	ポニー	3名
上千葉	都市整備部 公園課	2,100 m ²	ポニー5頭・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・シマリス・リスザル等	6名

< 1 > 目黒区碑文谷公園子ども動物広場

自治体からの初の委託動物広場として1981年運営が開始された。以来ポニーのほか小動物も取り入れた活動内容は、障害の有るなしに関わらず、子どもにはスポーツ・教育・生涯学習の場として、高齢者を含む大人には小動物とのふれあいができる憩いの場として社会的役割を果たしてきた。指定管理者の更新を迎える今年度は、昨年同様にポニー教室（団体・個人）の内容の充実はもとより、碑文谷公園クラブへの協力をはじめ、地域に根付いた活動の一層の活発化を図っていく。

上記の目的達成のため、下記の目標を持って運営する。

- ① 利用人数の増加：ミニイベントの開催や体育館の指定管理者のスポルテ目黒との共催事業を実施し、前年度実績を上回る利用者数。
- ② 碑文谷っ子キャンプ：蓼科ポニー牧場以外のキャンプ地の開拓。
- ③ ポニーまつりにおける馬車体験：許諾確認を取っての実施。
- ④ バランスボール講習会：子どもから高齢者まで、対象を広げた実施。
- ⑤ ボランティア研修：障害者乗馬指導技術向上。
- ⑥ 目黒区生活保護受給者社会体験支援事業への協力。

【事業内容】

- ① 小動物とのふれあい事業 (10:00~11:30、13:30~15:00)
- ② 引き馬指導員付ポニー乗馬 (10:00~11:30、13:30~15:00)
- ③ ポニー乗馬教室 (4~6月、7~9月、10~12月、1~3月の年4期、15:00~17:00)
- ④ 障害児ポニー乗馬教室
- ⑤ 幼稚園・保育園・学校単位の団体向け教室
- ⑥ 動物飼育体験クラブ（登録制） (10:00~17:00)
- ⑦ ポニーまつり (年1回6月)

< 2 > 葛飾区水元中央公園子ども動物広場（ポニースクールかつしか）

一年を通して子ども達の心身を鍛えるための様々な活動に取り組む。努力の大切さ、上達の感動、壁を乗り越える楽しさ、役に立つ喜び等、日々の活動を通して学べる内容に留意する。

夏の「モンゴル遊牧民生活・ナーダム競馬体験」、春の「日独乗馬・軽乗交流」への大きな夢に向かって元気ある子ども達であふれる一年にしていく。

○ 乗馬教室での取り組み

日々の向上、上達を念頭に、様々な課題を与える。反復練習を積み重ねながら、心身の鍛

錬を図る。

- ① 器械体操、マット運動の強化。チアダンスを取り入れ表現力の向上を図る。
- ② 大縄跳び競技「ロープジャンプ」の取り組み。
- ③ モンゴル語・ドイツ語・英語に親しむ機会を増やす。
- ④ ドイツスタイル軽乗の技の開発、習得。

【事業内容】

- ① 健全児・障害児対象の乗馬教室 (平日 15:00~17:00)
(土日祝日 10:00~12:00 13:30~16:00)
- ② 幼稚園・保育園・特別支援学校等の団体乗馬教室 (10:00~12:00)
- ③ 乳幼児・小学生対象引き馬乗馬 (10:00~11:30 13:30~14:30)
- ④ 不登校児のための乗馬教室 (年7回 10:00~12:00)
- ⑤ 出張軽乗演技披露 (年3回 葛飾区・新潟県長岡市)
- ⑥ 土曜学習 (土 10:00~12:00)
- ⑦ 各種特別行事 (子ども祭り・ポニー大運動会・保護者懇談会・軽乗フェスティバル・皇居マラソン大会・卒業式 等)
- ⑧ 「誰でも乗馬会」 (2月・6月)
- ⑨ ホームページによる広報活動、日々の活動内容紹介 (年間2万人が閲覧)

< 3 > 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場

指定管理者第2クール最後の年となる今年、同時に次クールへのエントリーの年ともなる。ハーモニセンターにとって様々な面で柱となった麻溝公園動物広場は、相模原市との連携をさらに深めることをより重要な取り組みとする。「ポニーボランティア活動」「子ども動物クラブ活動」「障害児のためのポニー教室」などのハーモニセンターならではの取り組みには、公園課の想像の枠をこえる活動が示されており、青少年の健全育成の拠点、居場所としての役割に対して高評価を頂いている。

今年度は、新規クールにむけたプログラムを試行する年として位置づける。「ファミリー」「高齢者」「乳児」などターゲットをさらに広げプログラムを展開していく。ハーモニセンターのRIDING FOR ALL イズムの最大の発信地としての役割を担っていく。

【事業内容】

- ① 小動物とのふれあい (ウサギ・モルモット・ヤギ・ヒツジ)
- ② ポニー引き馬乗馬
- ③ 親子ポニー引き馬乗馬
- ④ 動物イベント開催
- ⑤ 親子ポニー教室 (子育て支援)
- ⑥ ポニーボランティアの活動
- ⑦ ポニー乗馬教室
- ⑧ 障害児ポニー乗馬教室
- ⑨ 搾乳体験
- ⑩ 展示動物飼育管理
- ⑪ 動物クラブ (飼育体験クラブ) 活動
- ⑫ 動物フェスティバル (春・秋)
- ⑬ 出張乗馬教室
- ⑭ 団体利用ふれあい教室 (幼・保・小学団体)

< 4 > 横浜市万騎が原ちびっこ動物園（野毛山動物園分園）

地域に根付いた事業の実施を継続していく。小動物だけの施設ということの意識をあえて強くし、未就園、未就学の幼児から高齢者まで、来場者にとって心身とも無理なく楽しんで頂ける場としての価値を高めていく。

新しい取り組みとして、「園内にポニー乗馬を」という要望が発注元の横浜市緑の協会から出つつある。試行的に年3～5回程度のポニー乗馬プログラムを実施し反響を確認する。近い将来ポニーのいるちびっこ動物園に生まれ変わる公算は低くない。

【事業内容】

- ① 小動物とのふれあい
- ② 展示動物の飼育管理
- ③ イベントの開催（ポニー乗馬、工作教室など）

< 5 > 板橋こども動物園（本園・分園・昆虫公園）

昨年度同様こども動物園を舞台とした「馬と触れ合える文化」の定着に向けた働きかけを行う。

出張ふれあいは昨年度のプログラムに以下の工夫を加え、よりポニー・山羊・羊・モルモットを身近に感じてもらうプログラムを行う。

- ① 24年度までの出張ふれあい教室は区内保育園・幼稚園対象で行ってきたが、小学校まで枠を広げることで身近に接する機会を設け、こども動物園に関心を持ってもらう効果をねらう。
- ② 出張ふれあいの際に希望があれば馬・山羊・モルモット・ウサギの生態についての話を行うことによって動物に対する理解とやさしさを高める。
- ③ 24年度より分園でポニーを繋用したところ大人の来園者が増えた為、展示するだけではなく、えさやり体験を行うことで大人から子どもまで幅広い年齢層の来園者を見込む。

【事業内容】

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 小動物のふれあい | (本分園 ウサギ・モルモット・山羊・羊) |
| ② 引き馬ポニー乗馬 | (本分園 年5回) |
| ③ 展示動物の飼育管理 | (本分園) |
| ④ ポニー教室 | (本園 1クール5日間を5回。) |
| ⑤ 馬車の運行 | (本園 月1回) |
| ⑥ ふれあい団体利用 | (本分園 幼・保・小・障) |
| ⑦ 移動ふれあい教室 | (本園) |
| ⑧ 動物クラブ(飼育体験クラブ) | (本分園) (小3～中対象) |
| ⑨ 動物園祭り | (本園 10月) |
| ⑩ 冬のミニイベント | (分園 12月～2月 毎週日曜日) |
| ⑪ 昆虫ガイドツアー | (昆虫公園 月1回) 園内昆虫観察。 |
| ⑫ 昆虫標本教室 | (昆虫公園 月1回) カブトムシ標本作製。 |

< 6 > 海老名ふれあい動物施設（仮称）

神奈川県海老名市が姉妹都市である宮城県白石市を介して、北海道登別市よりポニー2頭の譲渡を受けた（当時シエトランド系ポニー・メス1歳）ことをきっかけに、かねてより計画（案）されていた、「ふれあい小動物園」を「仮設」として23年度スタート。

23年度、24年度は仮設馬房を「海老名市運動公園」敷地内に設置し、日常的なふれあい活動、特別養護ホームや市内幼稚園、保育園、小学校、各種イベントへの出張訪問活動を主として行った。夏には「ふれあいポニー教室」を10回実施、冬休みにも同様のポニー教室を行い共に大成功であった。24年度にスタートした馬車の運行は大好評で平日も列ができる賑わいをみせる。施設面では、引き馬コースが完成し、24年度内に厩舎は本厩舎の建設が完了する。

【事業内容】

- ① 馬車の運行
- ② 引き馬ポニー乗馬
- ③ 子どもポニークラブ
- ④ 小動物とのふれあい（ウサギ、モルモット、山羊など）
- ⑤ 各種イベントへの出張活動
- ⑥ 幼稚園・保育園・学校等の団体プログラム
- ⑦ 飼育体験ツアー
- ⑧ 物産品、関連グッズの販売

< 7 > 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

平成25年9月末までの2年半という契約期間の最終年となる。9月末までの契約であり、新たな入札によって運営者が決定される。運営が継続した場合は平成28年9月末までとなる予定。

この6ヶ月間の運営については前年同様の活動を予定している。

【事業内容】

- | | |
|---------------|--------------------|
| ① 小動物とのふれあい | （ウサギ・モルモット・ヤギ） |
| ② 引き馬によるポニー乗馬 | （1頭に付き2名で対応） |
| ③ 動物愛護クラブ | （期間や時間を定めての実施） |
| ④ ポニー教室 | （2回・10日間・各1時間） |
| ⑤ 展示動物の飼育管理 | （リスザル・シマリス・鳥類） |
| ⑥ 出張動物園 | （区内の高齢者施設や障害者施設対象） |

D. 青少年の国際交流の実施

< 1 > 日独青少年相互交流計画

日本とドイツの青少年がお互いの国を行き来し、異文化を学び、青少年の国際的視野を育てることを目的とした交流事業。隔年で派遣と受け入れを交互に実施。今年度は派遣の年にあたるとは、昨年ドイツ側の事情で中止となった受け入れも合わせて実施する。

1-1 「日本ードイツ青年交流」派遣

本事業開始時からのパートナーである大崎市鳴子国際交流協会と合同で参加者を募集。近隣諸国からの青年が加わる国際ワークキャンプへの参加を軸に、ホームステイなど参加者の希望によって活動内容が組み立てられる。現地では前年度の来日メンバーが中心になっての受け入れチームが結成される。

日程 2013年8月下旬

人数 15人

対象 16歳～30歳の青少年。

1-2 「日本ードイツ青年交流」受け入れ

大崎市鳴子国際交流協会と合同で、ドイツ参加者を受け入れる。ハーモニセンター側は、「蓼科ファミリーキャンプ」への合流を通して、カウンセラーとの交流に重点を置く。大崎市側はホームステイを軸に、それぞれ参加者の希望によって活動内容が組み立てられる。

日程 2013年10月中旬

人数 15人

対象 16歳～30歳の青少年。

1-3 「ドイツ乗馬交流」事業

2012年、(財)ハーモニセンター創立50周年記念事業としてスタート。21年にわたる青少年相互交流から新たに「乗馬」をテーマとしたプログラムに発展。今回で2度目の実施。シュタインフルト郡ラッドベルゲン馬術連盟・軽乗連盟の全面的な協力を受け、ドイツの歴史ある馬の文化にふれ、乗馬体験を中心とした交流プログラム。

「軽乗」に取り組んでいる子ども達向けに、コーチの特別レッスンを中心としたコースと、一般乗馬を楽しみながら交流を深める2つのコースを設定。

軽乗技術習得を通して、現地軽乗チームとの交流を深める。前回現地での軽乗を目の当たりにした衝撃と感動は大きく、ハーモニセンターの「馬との触れあい方」の新しい世界に道を開くこととなった。

○日程 2014年3月下旬～4月上旬（9泊）

(Aコース) 子ども軽乗交流コース

対象 小学4年～中学3年（軽乗経験者）

定員 15人

(Bコース) 一般乗馬交流コース

対象 中学生～大人（乗馬経験者）

定員 10人

内容 (A、Bとも)

・乗馬牧場生活（ライディングファーム）

- ・乗馬、軽乗レッスン（乗馬クラブ屋内馬場）
- ・野外騎乗体験 ・交流会（青少年センター）
- ・学校訪問、交流 ・市、表敬訪問
- ・ホームステイ（ステイプログラム）
- ・見学（馬術指導者育成研修センター）
- ・観光（ケルン市、近郊）買い物 サイクリング など

< 2 > モンゴル交流プロジェクト

2-1 モンゴル大草原乗馬を楽しむ旅

中国内モンゴル草原からモンゴル国中央部の草原に舞台を移し、「大草原乗馬を楽しむ旅」となった。以来子ども、高齢者、初心者も気軽に「馬の生活文化」を体験できる環境が整ってきた。乗馬指導から生活、食事の世話は「モンゴル文化教育大学」日本語学科の学生達が担当。

○日程

- | | | |
|---|----------|-----------------------------|
| 1 | N1コース | 7月16日（火）～23日（火） |
| 2 | N2コース | 7月23日（火）～30日（火） |
| 3 | N3・K3コース | 7月30日（火）～8月6日（火）：「20周年記念行事」 |
| 4 | N4・K4コース | 8月6日（火）～13日（火）：「遊牧民ナーダム競馬」 |
| 5 | N5・K5コース | 8月13日（火）～20日（火） |

※ N：成田発着 K：関空発着

- ・「遊牧民生活・ナーダム子ども競馬」コース（N4、K4）
家族の一員として生活を共にしたモンゴル遊牧草原生活を体験。競馬の手ほどきを受け、ミニナーダムの30kmレースに挑戦する。
- ・「乗馬を楽しむ旅」コース（N1～N5・K5）
初心者からベテランまでが、思い思いの草原乗馬を楽しむ。希望者には1泊の長距離乗馬トレッキングを用意。生活を共にする「学生」との交流が大きな魅力となる。

2-2 モンゴル文化教育大学創立20周年記念行事

93年創立の「ユートピア日本語学校（前身）」から20周年に当たる。多くの卒業生らが、その後日本での留学などで農工業、公務員、医師、通訳などの分野で活躍中。一同に会した記念行事をN3・K3コースで開催。祝賀会、報告会、特別記念のナーダム（相撲、競馬）を予定。

日本（土浦）でも記念行事を予定。祝賀会、報告会、歌舞団コンサートを予定。

2-3 モンゴル大草原遊牧民生活体験留学

不登校、引きこもり等の改善を目的に「草原生活体験留学」を実施する。遊牧民生活、地元学校での寄宿舎生活、モンゴル文化教育大学生との交流を通し、基本的な生活習慣の改善、学習意欲、体力、気力の回復、モンゴル語習得を図っていく。

2-4 馬頭琴教室開催

ハスロー講師の指導による馬頭琴教室を藤代（取手市）教室において、月1～2回の開催。

E. 青少年の指導者の育成

< 1 > ポニーキャンプカウンセラー及びジュニア・カウンセラー研修

ハーモニセンターが主催する事業に参加する青少年ボランティアを対象としたもの。活動の質と専門性を高めるため、また次代を担う健全な青少年の育成を目的としたもの。

宿泊、日帰りでの乗馬、野外実践活動から講義、ディスカッションなどの座学研修まで、あらゆるテーマを設け、一年を通して進められる。

1-1 宿泊研修 このほか必要に応じて日程を組んでいく。

	研修会名称	実施期間	会場	参加予定
1	新人カウンセラー牧場実習会	6 / 14 ~ 16	蓼科ポニー牧場	各20名
2	新人カウンセラー牧場実習会	7 / 5 ~ 7		
3	総合研修会	11 / 29 ~ 12 / 1		
4	総合研修会	2 / 7 ~ 11		
5	総合研修会	2 / 21 ~ 24		
	計 4回	延べ13泊		100名

1-2 日帰り研修会

- ・ ハーモニセンターの活動理念の学習及び相互理解。
- ・ 活動に直接活かせる各種実技の習得。(ギター、ゲーム指導、プログラム作り、ポニーの世話、自然体験活動、安全管理等の基礎的知識、技術の習得。
- ・ 長期キャンプ向けの特別研修。(プログラム企画・準備・振り返りなど)
- ・ 子ども動物広場各所での実践研修。(ポニーの扱い、子どもたちとのコミュニケーション、ポニーゲームの企画・実施等)。

< 2 > 職員の質向上のために

2-1 資格取得

事業参加者や関連自治体等のより強い信頼を得ると同時に、より質の高い事業を安全に行うために職員の資格取得を奨励する。平成25年度はそれぞれ複数名による飼育技士、旅行業務取扱管理者、自然体験活動推進協議会発行の指導者資格、川に学ぶ体験活動協議会発行の指導者資格取得を目指す。

2-2 内部研修等の実施

- ① 全国乗馬倶楽部振興協会が発行し、目黒区指定管理者としての必置とされている乗馬指導者資格取得を目指し、併せてハーモニセンター職員全体の乗馬技術・指導技術向上のための乗馬研修を実施する。
- ② 平成23年度に一部署で試験導入し、成果を上げているコーチングの手法を他部署にも広げる。各職員の得手、不得手を共通の物差しで測ることから始め、各事業所内の人員配置やプロジェクト立ち上げの人選など、効果的な人材活用に活かすことで、事業全体の活性化を図る。事務局においては、高学年のキャンプ離れ対策のような具体的な目

標を設定し、具体的にPDCAサイクルで継続的に対応する体制構築を目指す。

2-3 外部研修受講

官民間問わず、有効と思われる外部研修会には職員を積極的に送り出す。

F. 機関紙（誌）及び資料等の発行

公益財団法人への移行に伴い、機関紙は季刊誌となり、年4回の（4月、7月、10月、1月の各1日）の発刊とする。内容も、従来のキャンプ・イベント案内を中心とした構成ではなく、ハーモニセンターの活動理念の啓蒙に重点を置き、多面的な情報を発信できるよう編集部を設け推進していく。

キャンプ・イベントの案内に関しては、季刊誌とは別に「キャンペーター（仮名称）」をキャンプの日程に合わせた年5回（5月、8月、10月、1月、3月の各1日）の発送とする。

掲載写真のモノクロからフルカラーへの検討を行う。紙媒体の広報と比べ、リアルタイムな情報発信のできるWEBでの広報にも力を入れ、ハーモニセンターの活動を広く知ってもらうため、硬軟合わせたアプローチを考えていく。

G. 青少年教育に関する調査研究

- 1 日本治療的乗馬協会との協働研究を行う。
- 2 ポニーと子ども全国フォーラム開催は見送り、より実践的な調査研究の形を模索する年とする。

H. その他

<1> ツリークライミング

ツリークライミングの手法を用いて体験活動の提供、人材育成、樹木管理、環境整備を行うと同時に幅広い人的ネットワークを展開する。

【事業内容】

- ① オリンピックセンターを会場にした講習会。（年12回）
- ② 川口市立戸塚南小学校の子どもたちへの体験提供。（年6回）
- ③ ツリークライミングジャパンによる他団体プログラムへのサポート。
- ④ ハーモニセンター関係施設の樹木管理。

<2> ドイツ式軽乗の導入と発信

「日独乗馬・軽乗交流」（2012年3月）に於いて、全国に先駆け、ドイツ式軽乗を体験する機会を得、その後更なる研究を進め、軽乗新技の開発実践を行ってきた。今後は軽乗指導者の育成、普及に努め、各所で軽乗の輪が広がっていくことに力を注いでいく。

「軽乗フェスティバル」を開催し、同じ志を持つ人の指針となるノウハウを構築していく。
(年1回 12月)

< 3 > グランドポニースクール（長岡市）

新潟県長岡市の「熱中！感動！新ながおか夢づくり教育」実践活動の一つとして、2000年に開始された、市民がポニーとふれあう「ながおかポニーカーニバル」への協力を進めてきた。

その後、05年から市内小学校、幼稚園、養護学校、高齢者施設へポニーを派遣しての「グランドポニースクール」巡回体験学習活動が加わった。触れあい、餌やりから手綱を持った乗馬練習まで、この8年にわたる活動でほぼ市内全域の小学校、養護学校への1巡目を終え、昨年から2巡目に入る。各校から毎年十分な希望に応じられないほどの申し込みが続いている。

今年は下記の予定で、「グランドスクール」「ながおかポニーカーニバル」が行われる。

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ① グランドスクール | 2013年9月 8日（日）～ 13日（金） |
| | 9月23日（月）～10月2日（水） |
| ② ながおかポニーカーニバル | 9月29日（日） |